

村内防災拠点  
新飯館分署の完成

7月30日、老朽化に伴い改築を行ってきた南相馬消防署飯館分署が完成し、落成式が行われました。

式では、菅野村長が「村民の命、財産を守る大切な施設が完成した。この場所を拠点にして分署・村消防団・村役場が協力し、帰村してくる村民を守っていききたい」と、安心・安全のために関係機関が連携していく決意を述べました。

今回完成した飯館分署は、多様な訓練が可能な屋上訓練スペースなどを備えています。



▲救急・防災拠点の完成を祝いました

県民税優良町村に2年連続  
村に知事感謝状

昨年度の個人県民税納付で優秀な成績を取めたとして、村が個人県民税優良町村に選ばれました。村が優良町村に選ばれたのは昨年に続き2回目。8月19日に村役場で県知事感謝状が贈られました。

相双地域で優良町村に選ばれたのは、村のほか双葉町、川内村の計3町村でした。県内では合計12町村が選ばれました。村では平成26年度から運用しているコンビニ収納が、納税率向上の一因とみています。



▲県知事感謝状を受け取る菅野村長

村内バス停留所の再開  
南相馬・川俣・福島線

8月20日、福島交通バス「南相馬・川俣・福島線」の路線上に「飯館ふれ愛館前」と「白石」の2つのバス停が再開されました。これにより、震災後初めて路線バスの乗り降りが村内で可能になりました。

バスを利用した庄司馨さん・マスイさん夫妻（関沢）は「バス乗降ができるようになって嬉しい。避難先と村内の往復などで利用したい」と喜んでいました。この路線への問い合わせは福島交通福島支社 ☎024（535）4102まで。



▲村内バス停留所2か所の再開です

平和への願い新たに

硫黄島で戦死した  
高橋武雄さんの日章旗が  
村遺族会の手に戻りました



▲日章旗を受け取る赤石澤村遺族会会長(右前)

8月7日、消防技術を競う消防法大会相馬地方大会が、新地町総合公園で行われました。村からは、小型ポンプ操法の部に、団を代表して第2分団選抜チームが出場しました。選手は大会に向けて、4月から練習を開始。避難先から村内に通いながら技術を磨いてきました。結果は、惜しくも入賞は逃しましたが、息の合った動きや火点への放水などで健闘をみせました。



▲小型ポンプの部で、放水を行う消防団員

8月22日、太平洋戦争中に硫黄島で戦死した高橋武雄さん（関沢）が持っていた日章旗が村遺族会（赤石澤備会長）に戻還されました。

この日章旗は、アメリカ・ニューメキシコ州に住むマーク・ロスカーさんが約35年前に元アメリカ兵から譲り受けたものです。この度、遺族へ返還したいと考え、戦没者遺品の返還活動をしているNPO法人「OBON（オボン）ソサエティ」に依頼。日本遺族会、福島県遺族会の調査で高橋さんの物であったことが判明しました。



▲日章旗の所持者 高橋 武雄さん

遺族会 村の平和を誓う

旗を保存していたロスカーさんからは返還に際して、「35年もの間、日章旗を所有していましたが、私がつべきではないと感じていました。この度、高橋さんの故郷に戻ったことを本当に嬉しく思います」との手紙も寄せられました。日章旗を手渡された赤石澤会長は「高橋さんの意志を継いで、平和に暮らせる村をつくっていききたい」と決意を新たにしました。



▲返還された日章旗は、村役場で保管します

村内開催 戦没者追悼式

日章旗が返還された8月22日の午後には、交流センターで戦没者追悼式が行われ、戦争で亡くなった尊い命の冥福を祈り、次世代への平和の継承を誓いました。



▲戦没者へ対して、平和を誓いました

式では菅野村長が「戦後71年を過ぎた今なお、世界では争いが絶えない。日本の平和は、多くの犠牲の上に成り立っていることを忘れずに、平和を守っていききたい」とあいさつ。その後、参列者が献花を行いました。式後には、遺族会と英霊にこたえる会が主催する戦没者慰霊祭も執り行われました。